【ねがいましては】

平成１９年３月２０日　　*KYOWA SCHOOL*
第１９７号

「Ｓちゃんへの手紙」

「先生、今から行っても大丈夫ですか。」・・・小学校の先生を目指して、今年大学へチャレンジしている「S」ちゃんからのメールです。私は直接電話しました。受話器の向こうから聞こえるあまり元気のない声・・・。これはすべったかな・・・？「元気ない声だね・・・。」早速見抜かれてしまったＳちゃん、予備校の教室で泣いてしまったそうです。それから約３０分、「こんにちは」・・・。おみやげにドーナツの差し入れ・・・。

本命としていた大学は落ち、その代わり滑り止めとしていた大学へ合格したそうです。その大学には教育学部がなく教員にはなれないそうで、翌日の午後２時までに入学金を振り込まなければならないのだそうです。

「自分の気持ちをシュミレーションしてみればわかるはずだよ。銀行へ行き振込みが終わった時、寂しさがこみあげれば後悔することになるよ・・・もう答えは出ているはず・・・。」

それまで迷っていた物が吹っ切れたのか、突然大粒の涙が溢れ出します。様々な迷いが彼女の心の中を駆け巡っています。浪人した場合の予備校の費用、浪人しても合格できる保証などないこと、また落ちる可能性もあること。

ここへ来るまでの迷いが繰り返し心をよぎっているようです。結局４時間以上もいた彼女は、９０％はしっかりと自分の気持ちを確認し予備校へと戻っていきました。まだ残る一抹の迷い・・・。私は彼女の後姿から察しました。

翌日、実は都内小学校へボランティア派遣講師として行くことになっていたのです。毎年決まってその小学校からは直接電話がかかってきます。もう５年ほどになります。１時間目から４時間目まで、２クラス２時間ずつの授業です。はじめのクラスはベテランの女性教師率いるクラス、ところが始まってみると、大声を上げる子、教室内を駆け回る子・・・・・担任の先生は必死になって落ち着かせようとします。私はどんな子がいてもあまり気にしないほうなので２時間はあっという間に・・・。そして後半３～４時間目、男性教師率いるそのクラスは、先ほどとは打って変わってシーン・・・。授業開始､子どもたちの熱い視線を感じます。なんというまとまり方・・・。その２時間は今までにないくらい楽しい授業でした。普段私がこの小さな教室で訴えている心のことなどもしっかりと話すことができました。

「さあ、このそろばん（教師用大そろばん）に置いた大きい数を呼んでみようという子はいますか？」「ハーイ。」

「えらいね！・・・間違えてもいいからチャレンジしようとする気持ちに１００点・・・。その気持ち大切にしてね！・・・算数だけじゃない、そのほかの教科にだってどんどんチャレンジしてね・・・いつの間にか、間違えたらどうしようという引っ込みがちな気持ちになっている子が多いはずだけど、それを跳ね飛ばしてやってやるぞというこころ・・・そのこころに１００点です・・・。」

もう私はうれしくてうれしくて、無我夢中でその授業を終えました。終了後、担任の先生と一緒に階段を下りる中、私はすかさず「先生、３０歳越えたくらいですか？」「はい、３２です。でも教員になって１年目なんです。」「えっ、それじゃ一一念発起なさって・・・すごいじゃないですか。それで・・・あー先生、情熱感じましたよ。」

「えー、通信教育で免許取ったんです・・・。」

Ｓちゃん、いたよ。ここにも教員目指して、サラリーマンから一念発起して立派に『先生』している人がいました。彼は今、自分の夢を実現し、子どもたちと真正面から真剣に向かい合いながら人生を歩んでいます。きっとこれからも子どもたち皆に心の底から慕われる教師として成長して行くでしょう。私が授業をしている間、必死にメモを取る彼を見、やけにまじめな先生だなと不思議に思ってはいましたが、謎がとけました。

一度社会を経験している彼なら、社会の厳しさをきっと知っているでしょうし、その社会が『こころ』などゴミのように扱ってしまう世界であることもきっと肌で感じたでしょう。これじゃいけない、このままではいけない、子どもたちにどんなにつらいことがあっても､『心根』を忘れないで生きて行けるあたたかいものを伝えなければ･･･。きっとそのように感じていてくれているはずです。私の持っていったちょっとしたクイズにも真剣に向かう先生･･･。

ありがとうございます。すばらしい『ひと』に出会いました。

そしてその晩、私はＳちゃんを知る中学生にＳちゃん宛て、メールを送ってもらいました。

「ぜったいに先生になってください・・・。」「先生になって私のような生徒を助けてください・・・。」

返事が返ってきました。

「ありがとう。私浪人することに決めました。もう１年間頑張って教育学部目指します。Ｎちゃん、Ｍちゃん本当にありがとうございます。先生、また予備校で泣いちゃったよー！」

その返事を見た中学１年生のＮちゃんの瞳からは、ぽろぽろと大粒の涙がこぼれ落ちます。

「どうだい・・・こころが伝わるってこういうことだね、良かったね！」

・・・・・・・・・・・・・・・ありがとね。